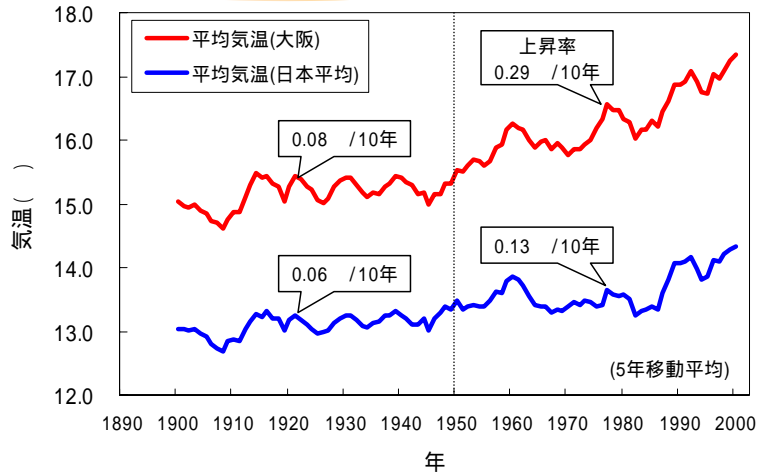


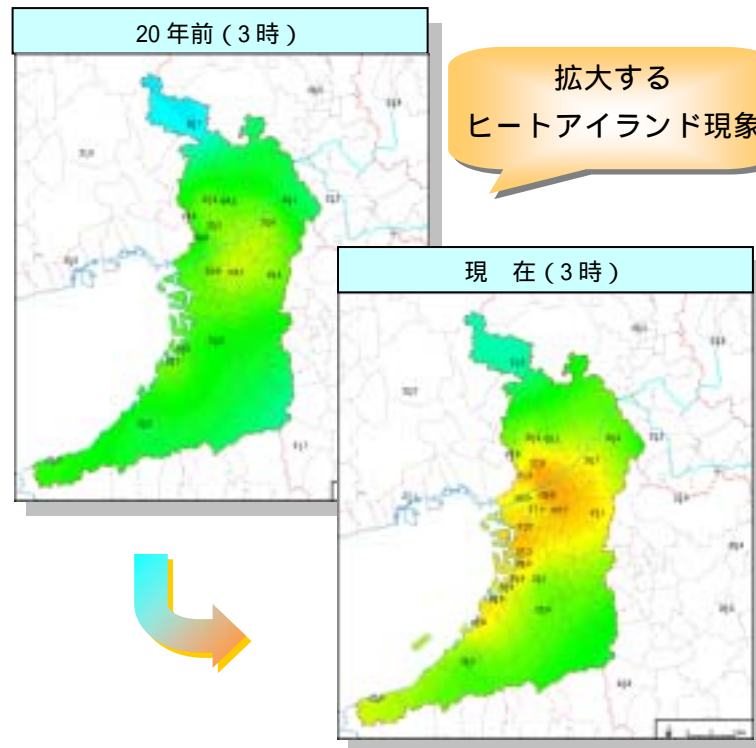
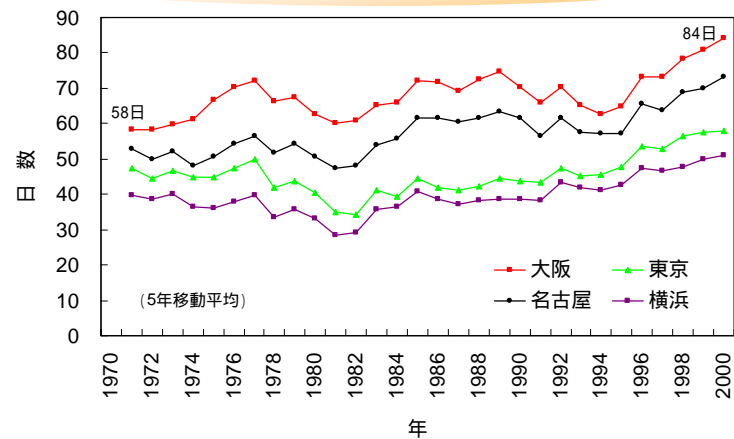
大阪府ヒートアイランド対策推進計画の概要

ヒートアイランドの現状

100年間で2.1の上昇



最も暑い都市・大阪 - 真夏日数の推移 -



計画の基本的な考え方

「21世紀の環境総合計画」で示された環境像を実現するため、ヒートアイランドに配慮したまちづくりを推進

「ヒートアイランドに配慮したまちづくり」の概念

緑や水による潤いにあふれ、自然な風がとおるまち
涼しさ、清々しさが感じられるまち
クーラーに頼らなくても寝られるまち
エネルギーを無駄にしないまち
建物や道に熱がたまりにくいまち

計画の期間と対象地域

【計画の期間】
計画の期間は2025(平成37)年度

【対象地域】
大阪府全域

目標

目標1：住宅地域における夏の夜間の気温を下げ、2025年までに夏の熱帯夜数を現状より3割減らす。

目標2：屋外空間にクールスポットを創出し、夏の日中の熱環境を改善し、体感的な温度を下げる。

対策の基本方向

- 【対策の基本】
- 省エネ機器の導入、ライフスタイルの改善等による人工排熱の低減
 - 土地や建築物の表面被覆の改善による表面温度の高温化抑制
 - 風や緑、水による冷却作用の利活用
- 【開発状況に応じたヒートアイランド対策】
- 既に開発されている地区
人工排熱の低減、土地や建築物の表面被覆の改善、緑化の推進等
 - 開発又は再開発が見込まれる地区
(1)の対策に加え、風や緑、水の冷却作用を活用した対策、エネルギー供給・排熱処理の工夫等
 - 開発されていない地区
緑や農地、水域の保全

対策手法とその評価

地域特性に応じた効果的な対策

個々の対策の効果について、
地区別・昼夜別に予測・評価



対策の実施による気温低下予測

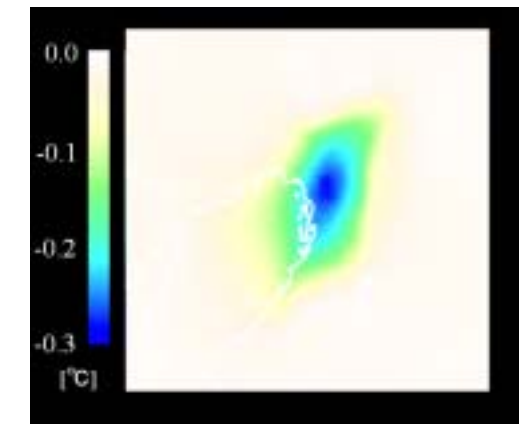
対策内容	対策量
建物内のエネルギー消費量の削減	現状より15%削減
自動車及び製造業からの排熱量の削減	現状より10%削減
市街地の地上部分の緑化	現状より15%増加
建物の屋上緑化	現状より20%増加
建物の屋上・壁面の高反射化	20% 60% (反射率)
保水性(透水性)舗装の普及	現状より20%増加
高反射性舗装の普及	20% 40% (反射率)
顕熱の潜熱化 蒸発潜熱の増加	現状より20%増加

【住宅地区】
昼間に効果的な対策
夜間に効果的な対策

住宅の屋上や壁面の蓄熱防止
水面の確保、保全
屋上緑化、住宅地内緑化等の緑化対策
住宅内での省エネ対策

【業務地区】
昼間に効果的な対策
夜間に効果的な対策

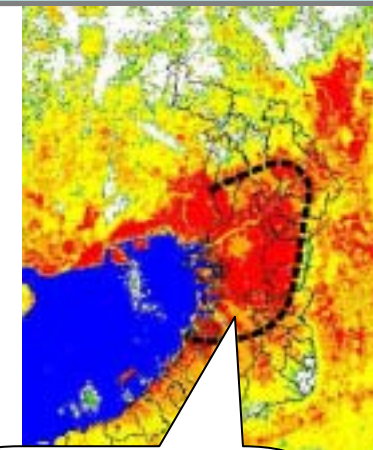
建物の屋上や壁面の蓄熱防止
顕熱の潜熱化(水冷式空調機等の導入)
交通排熱対策
屋上緑化、業務地内緑化等の緑化対策



気温の低減効果(5時)

大阪府におけるヒートアイランド対策

優先対策地域と先行的に推進する主な施策



北部エリア
服部緑地等の緑の量的拡大
大阪国際空港周辺整備の推進

東部エリア
府道等の透水性整備(寝屋川流域)
中央環状線の先行緑化
久宝寺緑地等の緑の量的拡大

中心部エリア
河川防潮堤の緑化
阪高淀川左岸線掘削
区間上部緑化

南部エリア
堺第7-3区における共生の森の創造
阪高大和川線地下区間上部緑化
大泉緑地等の緑の量的拡大

ヒートアイランド対策モデル事業の実施
府有施設の建て替え時における対策
下水処理場の緑化、せせらぎ等の整備

計画推進のための制度導入

ヒート・地球温暖化対策推進のための制度導入
「建築・まちづくりにおけるヒートアイランド対策に関する指針」
「公共事業における環境配慮指針」

進行管理

「大阪府ヒートアイランド対策推進会議」による進捗状況の点検と実態に即した見直し

モニタリング

気温観測網整備
府民意識調査

調査研究

実態把握
対策技術の開発と検証